

書評

本田 明 著

かかりつけ医のための
精神症状対応ハンドブック

松村医院院長

松 村 真 司

うつ病を代表とする精神疾患患者は、専門医の前にかかりつけ医を受診し、そしてその多くが適切に対処されていないという事実はこれまで何度も指摘されている。また、超高齢社会を迎えたわが国では、認知症を持つ患者への対応は、今や専門にかかわらずほとんどすべての医師が獲得すべき診療能力となった。認知症を持つ高齢者には慢性疾患が併存していることが多く、認知症への対応がなくは身体疾患の管理も困難になるからである。

しかし、適切な初期対応をしつ必要時に専門医へ紹介することは、専門医が考えるほどたやすいことではない。多くの疾患や症候の初期段階に対応することの多い私のような地域の医師の場合は特にそうである。さまざまな健康上の問題に対応する中で、精神症状に対応し、かつ患者の周囲にいる家族に対応していくことはとても難しいことである。多くの医師は

そのような状況の中、手探りで精一杯対応しているのが現状であろう。一方で、精神科専門医にしてみれば、もう少しかかりつけ医がきちんと対応してくれれば、と思うことが頻繁にあることも想像に難くない。

本書は、そんな初期対応を担うかかりつけ医の立場と、紹介を受ける精神科専門医の双方の立場を理解する本田明先生の手による本である。認知症やうつ病だけではなく、精神疾患全般について診断から基本的対応、薬物治療に至るまでを網羅した、コンパクトなハンドブックである。まず、かかりつけ医が身につけるべき精神科の基本的素養から始まり、精神科医との連携の上での注意点や、医療者自身のメンタルケアについてまで、精神症状を来す患者の診療にあたる上で陥りやすい問題点を取り上げると同時に、認知症・大うつ病・せん妄からパーソナリティ障害に至るまで、よく出会う精神

疾患について解説している。本書の最大の特徴は、私たち家庭医・かかりつけ医が診療にあたる上でどのようなアプローチが適切か、という解説が、豊富な症例を通じてなされている点である。本書では、200 ページ程度の中に、116 もの症例が呈示されている。それらの多くは、外来や訪問診療、あるいはデイサービスなどの高齢者施設などにおける症例である。これらの患者にどのように対応するか、その方法が解説とともに簡潔にまとまっている。さらに、対応に苦慮する場面についての解説もあり、本書を読むことで、基本的な対応法についての知識が得られると同時に、どのような問題が解決しにくい問題なのか、そしてどう専門医に委ねるべきかが理解できるようになっている。

著者自身が述べているように、今後もかかりつけ医が担当する精神疾患患者の数はさらに増加することが予想され、さらなる連携が鍵になる。著者のような、かかりつけ医・精神科医の双方の視点をもつ医師の手による解説書が多く世に出ることを今後も期待したい。

〔A5 頁 248 2011 年 定価
3,570 円(本体 3,400 円+税 5%)
医学書院刊〕